

北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会
会長 大久保雅人
事務局 札幌市立しらかば台小学校
事務局長 野村 邦重
TEL (011)852-4090
<http://www.hokkaido-sla.jp/>
印刷所 ㈱北海プリント
TEL (011)811-2396

「知識をつなげる 学びをひろげる 心をはぐくむ 学校図書館」

第37回全国学校図書館研究大会静岡大会報告

平成22年8月4日から6日まで、静岡県静岡市の静岡県コンベンションアーツセンター（グランシップ）において、「第37回全国学校図書館研究大会静岡大会」が開催されました。猛暑の中でしたが、全国各地より約2,200人が参加し100の分科会で3日間にわたる熱心な研究交流がなされました。

静岡大会は、記念すべき「国民読書年」に開催された研究大会であり、学校図書館をめぐる情勢を踏まえ、研究の重点を6つ設定していました。

- (1) ことばの力を培い、豊かな心をはぐくむ読書センターとしての学校図書館
- (2) 知識の活用や探究学習を支える学習センターとしての学校図書館
- (3) 情報活用能力をはぐくむ情報センターとしての学校図書館
- (4) 司書教諭と学校司書が連携して教育を支える学校図書館
- (5) 地域や家庭と連携する学校図書館
- (6) 特別な教育的ニーズをもつ児童生徒を支える学校図書館

第1日目は、「開会式」、「全体会」、「分科会」、「学校図書館を語る夕べ」が行われ、3日間の研究大会の幕を開けました。北海道からは、北海道学校図書館協会（SLA）会長の大久保雅人が「学校図書館と『国民読書年』」と題するシンポジウムにシンポジストとして、文字・活字文化振興機構の肥田美代子氏他と一緒に参加する機会を得、貴重な経験をさせていただきました。

第2日目の午前中には、旭川市立常盤中学校の鈴木有実教諭が、研究討議（中学校）の「学校図書館の環境をどのように整備したか」において、提言発表をされました。また、午後からは、函館市立戸井西小学校の藤原友和教諭が、研究討議（小学校）の「読書習慣確立のために学校と地域・家庭はどのように連携するか」において、札幌静修高等学校の山家亜希子司書が、ワークショップ

（合同）の「パスファインダーを学習に活かそう」において、提言発表をされました。

第3日目には、札幌市立発寒中学校の佐藤敬子教諭と北海道石狩翔陽高等学校の谷口初江司書が、研究討議（中・高）の「効果的な情報サービスをどのように行うか」において、それぞれ提言発表をされました。

北海道で実践を深められている先生方が提言発表を行い、関心を集め高い評価を得たことは、北海道SLAとしてもうれしいことであります。また、この他に司会を務めた先生方も含めて北海道SLAの皆さんの活躍が静岡大会の一翼を担っていたといえます。北海道SLAを代表して心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。また、参加された皆さんから全道各地に発信し、静岡大会の成果を北海道でも広く還元し、深めていくことを期待しております。

最後に、静岡大会の運営委員長が、「静岡県では、大会開催にあたり、大会の成功とともに運営を通して10年後の静岡県学校図書館を担える人材を育成できるよう、運営委員、関係機関・団体の協力のもと準備を進めてきた。」と語っていたことが深く印象に残りました。北海道SLAでも組織運営を通じた人材の育成を念頭において活動を進めていきたいと思っております。

（報告 北海道学校図書館協会会長 大久保 雅人）



静岡大会に参加して

函館市立戸井西小学校 教諭 藤原 友和

私に与えられた提言題は、「読書習慣の確立のために学校と地域・家庭はどのように連携するか」だった。この課題に対し、函館地区でおこなっている“草の根”レベルの取り組みの紹介を通して、「学校・地域・家庭の“互恵的な連携”を図るべきである」という趣旨の提言を行った。

課題は数多く残されているものの、これまでの取り組みが挙げている一定の成果と、目指している方向性については、全国から参加されていた方々から賛同をいただき、これからの研究の推進に勇気を得ることができた。

さて、ここでいう「互恵的な連携」とは、それぞれの場が抱えている悩みや困難などについて、互いのリソースを共有し合う関係をつくりあげていこうとすることを指している。

具体的には以下のような取り組みである。

- 「本との出会い」の保障～地域・家庭から学校へ～
 - ・地域から：「量」を増やす～巡回図書／読み聞かせ／団体貸し出し
 - ・家庭から：「機会」を増やす～親子読書／PTAボランティア
- 「本を使う場」のプロデュース～学校から地域・家庭へ～
 - ・家庭へ～親子読書の呼びかけ／ブッククエスト／ブックガイド
 - ・地域へ～本を「使う場」のプロデュース～幼小連携「クイズ大会をひらこう」



上記の例のように函館地区の民間レベルでの取り組みは非常に浸透しており、市内の学校の読書活動の推進において大きな役割を果たしている。市内の小学校97%で実施されている「朝読書」についても、低学年の学級には読み聞かせという形で協力したり、高学年の学級ではブックトークを行うという形で関わったりしている。また、新指導要領における生活科では、「小1プロブレム」への対応として、スタートカリキュラムの作成が示唆されるなど、幼小連携の重要性は今後もますます高まりつつある。

読書習慣の確立に向けて、学校・地域・家庭がそれぞれにできることは数多くあるだろう。しかし、それぞれがバラバラに「個別の努力」を続けるよりも、互いが「つながる努力」を一步でも進めることで、個別の努力がさらに有効に働くのではないかと考えている。学校図書館はそのためのハブの役割を果たすことができるのではないだろうか。

最後に、貴重な経験を支えてくださった函館地区の会員の皆さん、当地でサポートをしてくださった道の研究会の皆さん、そして素晴らしい会を運営してくださった現地運営委員の皆さんに感謝して筆を置きたい。有難うございました。

第33回北海道子どもの本のつどい今金大会終わる

～ここからはじまる未来の1ページ～

猛暑の続く2010年8月7日(土)・8日(日)道南の今金町で「第33回北海道子どもの本のつどい今金大会」が開催されました。～すべての子らに本の楽しさを～を合言葉につどいがスタートしたのが1978年。以来北海道16市4町で「書き手」「読み手」「渡し手」の三者が集い、研修・交流の場を通して読書活動の輪を広げてきました。

今大会初日は今金町民センター、今金小学校を会場に①ブックスタート、②絵本の魅力～伝えること、手渡すこと～、③特別支援教育～特別支援教育の現場～、④学校図書館～使おう！ひらこう！学校図書館～、⑤司書のつどい～地域における図書館の役割～、⑥平和を考える～今、子どもたちに伝えたいもの～、⑦創作 北海道からの子どもたちに向けて～多様な表現で書き続けよう～、⑧子ども分科会「今金探検隊」～デジカメで絵本作り～と、各分科会で時間が足りなくなるほどの熱い盛り上がりでした。

二日目は会場を今金小学校に移し絵本作家・豊かずひこさんによる「しんぱいごむよう！ももんちゃんといっしょ」と題しての講演会、その後“いまかね図書祭り”(ステージ発表・展示・ワークショップ)と同時進行で①語りの部屋～ストーリーテリング～、②手遊び・わらべうたの部屋、③児童文学を読もう！、④図書館は今～道立図書館の指定管理者制度問題を考える～、⑤アイヌの部屋、と5つの分科会が開かれ、各地から参加した人たちとじっくりとそれぞれのテーマを掘り下げる時をもつことができました。



33年間の歴史の中で初めて地元の行政が運営するということが、戸惑いも多くありましたが、本に係わる町民を始め、町の若手職員・檜山管内の社会教育主事らを含め、正に地域が一体となる底力を感じるところとなりました。

「大きな組織や運営資金もなく子どもの本の活動を継続している仲間たちのためにも、道立図書館への指定管理者制度導入の方向は見直すべきだ」とのアピールを“図書館は今”の分科会で採択しましたが、激動のこの厳しい時代だからこそ、今回の大会のように行政と手を携えてともに未来に続く子どもたちへしっかりとバトンを手渡していきたいという思いを強くしました。

(寄稿 北海道子どもの本連絡会 事務局 高橋洋子)



第52回北海道図書館大会開催される

「国民読書年～今こそ図書館は力～」のテーマで、9月9～10日、北海学園大学で開催されました。北海道学校図書館協会が担当した分科会の内容を紹介します。(第4・第8分科会は次号に掲載予定)

第3分科会 北米学校図書館の視察報告

苫小牧市立泉野小学校 教諭 鈴木 祐 亮

(1) 教育に学校図書館をどう生かしているか
 ☆日本と全く違う制度…州や学区によって違う制度をもっている。システムはもちろん、学年の分け方も違う。日本には法律はあるが、アメリカは高校以外、学校図書館設置の義務がない。

そのような状況の中で、
 共通してアメリカの教育の根底にあるのは…読書教育と移民教育
 ↓
 全ての学習のカギを担うものであるという考えをもっている

☆アメリカでは「ティーチャーライブラリアン」「メディアスペシャリスト」などと呼ばれる人が図書館に常駐しており、もちろん専任である。日本の司書教諭に当たる人がこれである。アメリカでは、これらの先生が図書館にいつもいるのは当たり前である、という考えは共通している。そのため、スタッフが複数であっても立場は同じであり、司書と司書教諭、という日本のような関係はない。

総合学習的なものとして…

〇〇について…もあるが、「あなたが国をもって国民を呼びたいと思ったら、どんなところを売りにして国づくりをするか？」というような「あなたが〇〇なら？」という、なりきる形の探求学習(リサーチ)もあり、おもしろかった。

☆「インフォメーション・フルーエンシー」

子どもたちの学習や生活と、様々な情報を、行間を含めて考えられるような、「なめらかに」読み取り感じ取る力・・・
 「情報リテラシー」の概念を超える概念」と言われている。

読書を単なる趣味程度の活動としてとらえるのではなく、宿題としても力を入れており、読んだ内容について質問されることがある。

答えられなかったらちゃんと読んでいないと見なされるほど。そのまま行こうには、日本では抵抗感が強いことが予想されるので、取り組み方を工夫し、何とか日本で応用したいもの・・・。

☆追加資料

「グラフィックノベル」＝マンガ・・・「Japanese Manga」の人気

日本では連載の時代の違うものが、一冊に集めて「ジャンプ」というような形になっている。それが、学校図書館に置いてある。すべて英訳されている。段階として、活字をなかなか読まない子、活字のみが苦手な子に適しているとのこと。絵が内容理解の助けになると言うこともあるし、日本のマンガは人間関係が複雑なので、読み取る力が必要であるということも言われていたとのこと。そして、最終的にはマンガの世界から脱却していくというステップも前提として考えている(力をつけるステップの1つ)。

マンガはよくない、という考え方もよくあるが、学校でマンガを禁止としたところで家ではマンガもテレビも見るので、図書館に置いてどんどん手に取らせようという考え方がいい。

「ティーンフレンドリー」という考え方も、雰囲気もあった。静かにすべきと注意するより、談笑したりしながら本を楽しむという場も、同じ図書館でもあるようだ。日本と比べ、蔵書数としては大差ないように思われたが、授業で頻繁に、当たり前のように使われる学習の場としてしっかりと確立している。

(2) 私たちが訪れたシカゴ・ボストン・ニューヨークの学校図書館

図書館では、入ると成績優秀者の写真が貼られるところも。専科のあるところは、一部を展示場的に使うスペースのあるところもあった。

具体的には・・・

ぬいぐるみをたくさん置き
 カーペットのスペースがある。
 分類の仕方についての表記がある(絵での表示も)。
 国旗が飾ってある。
 パソコン室並みのたくさんのパソコンがある(当然のことであるようだ)。

「Read」ポスター(パロディー)を貼る。
 日本は模造紙によるまとめ→アメリカは厚紙を屏風状にししたりするまとめ方も。この方法で、本の紹介もされる。
 天井から旗(たれまく)をつるすところも。アメリカの図書館協会で売っている表示。

本の形のクッション。
 先生方の教材研究の場所が、図書館の隣にある所も。
 学習したものを形にしたものが、図書館の掲示物(理科の細胞などとして利用される場面を多く見た)。
 選挙結果など、タイムリーな話題を掲示するスペースも。
 真っ白な本が売っていて、表紙から中身まで、自分が調べたものが本になると言う学習の仕方がある。
 子どもが描いた絵を、図書館の表示にするというやり方。
 図書館の隣にストーリールームがあり、そこで読み聞かせをする。

本を置いているだけでは「図書館」ではないと、いつていた。

アメリカでも、悩みは共通している様子。
 行事でもない限り、ほとんど毎時間、図書館は使われている。学習の場としての使われ方が確立している。
 情報カードの色分けをする(本で調べたらピンク、パソコンなら黄色、というように。)ことで、情報源や自分の使い方を意識すると言う取り組みがあった。

(文責 札幌市立北小学校 教諭 太田沙絵)

後志学校図書館研究協議会 会長 故 藤木信夫校長先生を偲んで

去る5月2日、藤木信夫校長先生の突然の訃報に耳を疑いました。昨年の感想文審査会でお会いしたときはお元気だったのに・・・と。本当に今でも信じられない思いです。

藤木校長先生は、昭和50年島牧村立原歌小中学校を振り出しに後志管内で教鞭をとられてきました。平成8年度には倶知安町立西小学校に勤務され、その年から「後志学校図書館研究協議会」の事務局長をされています。その間、後志地区の研究會・講習会などを開催し、会員の拡大に力を入れてこられました。平成18年度からは会長に就任され、後志の読書活動に貢献されました。そして、今年度、喜茂別町立鈴川小学校に在任中にご逝去されました。

どんなことにも熱心で、温かいお人柄の校長先生でした。本当に残念でなりません。これまでのご苦勞に深く感謝いたします。哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈りいたします。(岩内町立岩内中央小学校 教諭 加藤 幸子)

全道研究部長会から

北海道学校図書館協会の第40回全道研究部長会が9月11日(土)、12日(日)の両日、かでの2・7で行われた。

1日目の前半には、平成23年度に開催が予定されている北海道学校図書館研究大会十勝大会(仮称)についての概要が審議された。関係団体との協力体制や会場・輸送の確保、宿泊施設の利便などで、過去の大会の例を参考に、運営事務局での再検討が確認された。また分科会における公開授業・反省の時間と提言・質疑応答の時間の確保、十勝らしさの見えるセッションの設定などについての意見が出され、これもまた運営事務局での詳細な検討が約束された。さらには大会要項・案内をできるだけ安価な通信費でかつ効率よく全道各地に送付するための方法も議論された。

後半には、まず十勝大会のテーマ・研究内容の審議が行われた。十勝地区の研究部長・川口珠美先生より十勝大会の研究テーマ「確かな学びと豊かな心をはぐくむ学校図書館～つなげる学び つながる仲間～」が発表され、研究テーマの意図する内容について活発な意見交換がなされた。また研究重点に関わって、学校図書館を活用した特別支援教育の実践の集積と分科会にむけた提言者の確保の必要性が確認された。

続いて十勝大会の構想検討終了後には、道内各支部からの活動状況の報告があった。



札幌支部からは、8月末に行われた山形県鶴岡市の五十嵐絹子氏を迎えて開かれた講演会の様子や12月に予定されている研究大会の進捗状況などが報告された。旭川支部からは、学校図書館補助員制度の現状や司書教諭・学校図書館担当者研修会などの取り組みが報告された。苫小牧支部からは、小中学生をはじめ広く苫小牧市民からの投票により決定する「苫小牧子どもの本大賞」への取り組みや、学校図書館ボランティア連絡会、学校図書館担当者研修会の様子などが報告された。室蘭支部からは、児童数減少による市内学校統廃合という厳しい環境の中、推薦図書選定や感想文コンクールなどへの取り組みが報告された。十勝地区支部からは、十勝大会に向けた熱心な研修

会や授業研究への取り組みが報告された。5支部の報告のあと質疑応答の時間ももたれたが、図書予算が大幅に増額された支部の現況や、学校図書館担当者へのアンケートなどによる朝読書や読書活動などの学校別データがいくつかの支部から資料として発表され、大きな関心を集めていた。

2日目は、前日に引き続き道内各支部からの活動状況の報告が行われた。小樽支部からは、支部内で取り組んでいる特色ある図書館活動・授業への活用の状況や厳しい活動予算状況、さらには平成25年度に開催が予定されている北海道学校図書館研究大会小樽大会への準備の様子なども報告された。函館支部からは、3つの部会(読書指導、学ば方指導、図書館運営)が授業実践や学校図書館ボランティアなどとの連携を通して活動を推進している現況を紹介、着実に広がる図書館データベース化への取り組みも報告された。帯広支部からは、市内小学生を集めてポスターセッションを行う「小学生図書委員交流会」の計画や学校図書館クリニックへの取り組みの様子が報告された。十勝地区高等学校からは、図書館担当者に向けての図書廃棄など実務研修会の活動状況が報告された。釧路支部からは、ブックコートの実際などの実技研修会の開催や支部内各学校に向けたSLA通信の発行などが報告された。

次年度の十勝大会に向けた本格的な審議や道内各支部の最新の活動状況が交流することのできた、実り多い二日間となった。

(文責 札幌市立栄西小学校 教諭 村山知成)

後藤竜二さんの死を悼む

後藤竜二さんが亡くなりました。今年7月3日。まだ、67歳であった。後藤竜二さんは、『天使で大地はいっぱいだ』(1967年)でデビューされ、1977年に『白赤だすき小〇の旗風』で日本児童文学者協会賞を受賞され、1979年、『故郷』で旺文社文学賞、1994年に『野心あらためず・日高見国伝』で野間児童文芸賞、2006年に『おかあさん、げんきですか』で日本絵本大賞を受賞された。全国児童文学同人誌連絡会『季節風』代表としてあさのあつこさんなどの新人を育ててこられたことも大きな足跡だ。戦後を代表する児童文学者のお一人である。まだまだ作品を読ませていただきたいかったという思いでいっぱいである。

後藤さんには、オホーツク・北見大会で『作家と語る』の分科会で司会をしたときにお目にかかった。長谷川知子さんの講演と合わせ、北海道出身の作家としてより親しみを感じた時間だった。

わたしが初めて後藤さんの本を手にとったのは、『キャプテンはつらいぜ』である。高学年の担任の時で、いい本を紹介したいと思いつけた本だ。チームを何とかまとめようとする勇の応援をすると同時に、子どもたちに仲間について考えさせたかったことを覚えている。

衝撃的だったのは『1ねん1くみ1ばんワル』だ。長谷川さんの絵もあり、くろさわ君をととても魅力的に感じた。この本は絶対に子どもたちを惹きつけると確信した。このシリーズはずっと子どもたちを楽しませてくれた。

後藤さんは現場の教師と交流が深かったと伺っていた。『12歳たちの伝説シリーズ』や『14歳—Fight』はそれが生きた本だと伝わってくる。『5年3組シリーズ』『3年1組シリーズ』もそうであると思う。

学級文庫でよく読まれていた『かもめ分校は大さわぎ』。指定図書の『九月の口伝』。幼い日を思い出させる『くさいろのマフラー』や『りんごの花』。作者のやさしさが伝わる『紅玉』。笑みがこぼれてきた『おかあさん、げんきですか』など、心に残る本がたくさんある。

まだまだ、読んでいない作品もある。自分で楽しむと共に、子どもたちに後藤竜二さんの思いを少しでも届ける働きかけに努めるつもりである。

北海道学校図書館協会顧問・札幌市立北光小学校 校長 佐藤 慎一

第31回(2010年度)「絵と文による冬休み読書大賞」実施要領

- ・主 催 北海道学校図書館協会・北海道新聞社
- ・作品規定 対象図書は両部門とも、「冬休み推せん図書」(小学生～中学生指定) および「平成22年度 北海道青少年のための200冊の本」です。200冊の本の校種別や学年指定はありません。自由に本は選んでください。高校生は「200冊の本」からの応募になります。道内の小・中・高校生ならだれでも応募できます。

- ・応募要領
 - 【絵と文部門】

- 絵(感想画)：用紙は四つ切りサイズ(54cm×38cm)の画用紙。タテ、ヨコ自由。
水彩・クレヨン・版画など自由。はり絵、切り絵、コンピューター使用のものは対象外です。
本を読んで印象に残ったこと、感動したことを表現しましょう。読んだ本の中に出てくる絵(さし絵)をまねたり、大人に手伝ってもらってははいけません。
- 文：400字詰原稿用紙に、小学生は1枚、中学・高校生は2枚以内に。
原稿用紙に学校名、氏名は書き込まないこと。自筆のものとし、コピーやコンピューター使用は認めません。誤字のないように気をつけましょう。絵の説明やあらすじを書くのではありません。本を読んで感動したことを中心にまとめてください。
- その他 絵と文を総合的に見て審査します。絵も文もしっかりかいてください。
応募票は絵の裏にはり、絵は折らないで、原稿用紙は絵の下にはって送ってください。

- 【読書感想絵ハガキ部門】

- 用紙：郵便はがき同サイズ(14.7cm×10cm)の画用紙。タテ、ヨコ自由。
- 絵：水彩・クレヨン・版画・色えんぴつ・クーピーなど自由。
はり絵、切り絵、コンピューター使用のものは対象外です。
読んだ本の中に出てくる絵(さし絵)をまねたり、大人に手伝ってもらってははいけません。
- 文：基本的に何を使用してもかまいません。文字がにじまずきちんと読めるもので書いてください。
自筆のものとし、コピーやコンピューター使用は認めません。
文字数は、小学生：50～100字程度、中学生以上：100～200字程度。本のあらすじを書くのではありません。本を読んで感動したことを、電子メールや手紙のように、伝えたい相手に伝わるようにまとめてください。誰にあててかいたものなのかを応募票に書いてください。
- その他 絵と文を総合的に見て審査します。絵も文もしっかりかいてください。
応募票は作品の裏にはってください。そのまま郵送してもかまいませんが、送付のさい、ご注意ください。

- ・応募締切 平成23年 1月28日(金) (必着)
- ・応募先 〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 道新文化事業社
「絵と文による冬休み読書大賞」係
☎(011) 210-5735 (月～金 9:30～17:30、土・日・祝日休み)

2010年度 北海道冬休み推せん図書

	書 名	著 者 名	出 版 社	定 価
小学校 1・2 年指定	ゴリラのごるちゃん	神沢利子 作/あべ弘士 絵	ポ プ ラ 社	945
	ひみつのぼしよ	ひがしちから 作・絵	PHP 研究所	1,260
	ひらがな だいぼうけん	宮下すずか さく/みやざきひろかず え	偕 成 社	1,260
	みんな おやすみ	和木亮子 作/いもとようこ 絵	金 の 星 社	1,470
	りんごひろい きょうそう	宮川ひろ 作/鈴木まもる 絵	小 峰 書 店	1,155
小学 校 3・4 年 指 定	あえてよかったね	山末やすえ 作/徳永健 画	くもん出版	1,260
	アヤカシ森から SOS! <small>エスオーエス</small>	白金ゆみこ 作/狩野富貴子 絵	あかね書房	1,260
	サケと「浅井つ子」のふるさと物語	池田まき子 著	汐 文 社	1,470
	ソクラテス学校へ行く	山口タオ 作/田丸芳枝 絵	岩 崎 書 店	1,260
小学 校 5・6 年 指 定	セラピー犬からのおくりもの	ローリー・ハルツ・アンダーソン 作 中井はるの 訳 藤丘ようこ 画	金 の 星 社	1,470
	卒業の歌～ぼくたちの挑戦～	本田有明 著	PHP 研究所	1,365
	花ざかりの家の魔女 <small>まじよ</small>	河原潤子 作/岡本順 絵	あかね書房	1,365
	ぼくとリンダと庭の船	ユルゲン・バンシエルス 作 若松宣子 訳	偕 成 社	1,470
中 学 生 指 定	席を立たなかったクローデット -15歳、人種差別と戦って-	フィリップ・フース 作 渋谷弘子 訳	汐 文 社	1,470
	りゅう はら 龍の腹	中川なをみ 作 林喜美子 画	くもん出版	1,575

「平成22年度 北海道青少年のための200冊の本」：ホームページからご覧ください。

第43回北海道学校図書館研修講座へのご案内

主催 ●北海道学校図書館協会
後援 ●北海道教育委員会
 札幌市教育委員会
趣旨 ●学校図書館の運営及び情報・メディアを活用する学び方の指導、並びに読書指導に関する基本的事項について理解を深めるとともに、学校図書館の目指す方向と役割についての見識を深め、学校図書館の機能の向上を図ることを目的とする。

日時 ●平成23年1月5日(水)～7日(金)
会場 ●北海道立道民活動センター (かでの2・7)
 札幌市中央区北2条西7丁目 ☎(011)204-5100
 ●札幌市立北光小学校 ☎(011)721-0377
 札幌市東区北12条東6丁目1-1
 ●藤女子大学図書館 ☎(011)736-5407
 札幌市北区北16条西2丁目1-2

参加資格 ●学校図書館及び読書指導・学び方の指導に関わっている方ならどなたでも参加できます。

定員 ●150名
参加費 ●4,000円(資料代を含む)
参加申込 ●参加ご希望の方は、研修講座参加申込書に必要事項を記入して、12月6日(月)～20日(月)の期間に直接FAXにてお申し込みください。

研修講座申込先
 〒004-0002 札幌市厚別区厚別東2条4丁目5-1
 札幌市立小野幌小学校 山田佳子
 TEL (011)898-0552 FAX(011)898-2749

A. 共通講座
 ～参加者皆さんが受ける講座です。教育・学校図書館を取り巻く現状と展望について学びましょう。
講演 「学習指導と学校図書館」
 帝京大学文学部教育学科・大学院教職研究科 准教授 鎌田和宏

B. 選択講座：ファーストコース
 1. 講義 「管理・運営」
 札幌市立手稲宮丘小学校 校長 中橋理子
 2. 講義 「図書館活動」
 札幌市立新琴似北中学校 司書教諭 浅村麻姫子
 3. 講義 「読書指導」
 札幌市立北小学校 司書教諭 太田沙絵
 4. 講義 「情報・メディアを活用する学び方の指導」
 札幌市立発寒中学校 司書教諭 佐藤敬子

C. 選択講座：ステップアップコース
 1. 講義・実習 「分類と目録」
 札幌聖心女子学院 司書 新田裕子
 2. 講義・実習 「読書アニメーションに挑戦！」
 札幌市立石山南小学校 司書教諭 佐藤広也
 3. 講義・実習 「朗読を楽しもう」
 元HBCアナウンサー・朝日カルチャー講師 安藤千鶴子
 4. 講義・実習 「ブックトークを楽しもう」
 札幌市立西岡小学校 校長 浦田日出雄
 5. 講義・実習 「学校図書館クリニック」
 旭川市立愛宕中学校 司書教諭 加藤直子
 6. 講義・実習 「レファレンスの基本」
 藤女子大学 教授 渡邊重夫

D. 校種別選択講座
 1. 討議 「教育課程の展開に寄与する図書館資料の活用とその指導～小学校」
 苫小牧市立北星小学校 司書教諭 井村友美
 2. 討議 「教育課程の展開に寄与する図書館資料の活用とその指導～中学校」
 旭川市立西神楽中学校 教諭 植田美保子
 3. 討議 「教育課程の展開に寄与する図書館資料の活用とその指導～高等学校」
 帯広三条高等学校 教諭 坂口英樹
 帯広三条高等学校 司書 高橋理奈

E. 選択講座・高校コース
 1. 講義「管理・運営」 石狩翔陽高等学校 司書 谷口初江
 2. 講義「交流」 札幌聖心女子学院 司書 新田裕子
F. ナイター
 1. もっと！本の話をしよう
 2. 広報紙持ち寄り報告会
 3. 支援が必要な子どもたちと図書館
 アドバイザー 札幌学院大学 准教授 二通 諭

～研修日程～

1月5日(水) 〈かでの2・7〉 ※受付は4階大会議室で行います。直接お越しください。

9:30	10:00	10:25	12:00	13:00	14:40	16:30	18:00	20:00
受付	開講式	A. 講演	昼食	B1. 管理・運営	B2. 図書館活動		F1. もっと本	
				C1. 分類と目録			F2. 広報紙	
				C2. アニメーション			F3. 特別支援	
				G1. 研究部長会				

1月6日(木) 〈かでの2・7、札幌市立北光小学校、藤女子大学図書館〉

9:30	12:00	13:00	13:30	14:40	16:30	18:00
C3. 朗読	昼食	B3. 読書指導	B4. 学び方の指導			懇親会
C4. ブックトーク		C5. 図書館クリニック(北光小)				
E1. 高校 管理・運営		C6. レファレンス(藤女子大学)				
G2. 研究部長会		E2. 高校 交流				

1月7日(金) 〈かでの2・7〉

9:30	11:30	11:50
D1. 討議〈小〉	閉講式	
D2. 討議〈中〉		
D3. 討議〈高〉		

G. 指導者研修講座(全道研究部長会)
 1. 第39回北海道学校図書館研究大会(十勝大会)について
 2. 支部研究交流
 各支部研究部長
 道SLA研究部長 佐藤 敬子(札幌市立発寒中学校 司書教諭)
 道SLA事務局長 野村 邦重(札幌市立しらかば台小学校 校長)

学校図書館情報



2010年は「国民読書年」

◆「気がつけば、もう降りる駅。」

2010年 第64回 読書週間

10月27日(水)～11月9日(火)

標語入賞者：高橋尚子さんの言葉

「私が読書するのはたいてい電車の中です。電車で揺られながら本を読むとつい夢中になってしまい、慌てて本を閉じて降りることがしばしばあります。満員電車ではなく、たまには座ってゆっくり本を読みながら目的地に行くのもいいですね。」



◆北海道学校図書館協会推せん図書

『星になった鮭』 榎木啓子/文、佐藤吉五郎/絵 響文社
2010. 8. 15 発売 1,260円(税込)
ひたむきに我が子を守る母の姿を描く。

『義男の空』 エアーダイブ/制作 ダイブックス
2008. 1. 31 第1巻刊行
現在第4巻まで発行 1,200円(税込)
実在する一人の小児脳神経外科医とその「仲間」の物語。北海道から初のマンガ単行本を刊行。

◆第56回青少年読書感想文全道コンクール 第36回北海道指定図書読書感想文コンクール

多数のご応募、ありがとうございます。
全道審査は、10月18～30日に行われます。
表彰式 12月5日(日) 10:00～12:00
センチュリーロイヤルホテル 20F 白鳥の間
(札幌市中央区北5条西5丁目)

◆創立60周年記念 学校図書館功労者表彰

全国SLAでは、これまで創立10年ごとの機会に学校図書館功労者の表彰を行っています。創立60周年を迎え、第6回目となります。北海道からは次の6名の方が表彰されました。(6月12日表彰式)

- 阿知良光治 (道SLA)、大川 秀明 (道SLA)
 - 笠原紀久恵 (苫小牧市)、中西 慧子 (旭川市)
 - 伴 俊行 (苫小牧市)、渡邊 重夫 (道SLA)
- (敬称略)

事務局

〒062-0054 札幌市豊平区月寒東4条8丁目10-43
札幌市立しらかば台小学校内
事務局長 野村 邦重
TEL 011-852-4090
FAX 011-852-2379
E-mail:kunishige.nomura@city.sapporo.jp

Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15
TEL (011) 857-3331
FAX (011) 857-5211

◆SLBCからSLBAへ!

学校図書館ブッククラブ(SLBC)は、1970年、学校図書館の蔵書充実を目的に、全国SLA、出版社、書籍取次会社の三者で設立された非営利団体です。設立40周年を迎え、2010年7月1日「一般社団法人 学校図書館図書整備協会」(SLBA)として新たに出発しました。購入の仕方はこれまでと同じで、取次業者に「SLBAをお願いします。」と伝えるだけです。活用と普及をお願いします。

◇札幌の升井純子さん『空打ちブルース』

第51回講談社児童文学新入賞を受賞

作品は、古書店でアルバイトする男子高校生が、商品をレジを通さず会計する「空打ち」をするよう先輩に求められて苦悩する物語。友人たちに支えられながら、精神的に成長する過程を描く。(9月15日表彰式)

◇札幌の重松彌佐さん『夏の時計』出版

日本児童文学者協会 第7回長編児童文学新入賞(2008年)佳作受賞作品。晴朗社 1,300円(税込)
定山溪と浜益を舞台に、家族の絆を描く。

編集後記

各地で真夏日の記録を塗り替えた夏が過ぎ、日に日に秋が深まってきました。皆様にはお忙しい毎日をお過ごしのことでしょう。今年度2回目の発行となる本号は、8月に開催された第37回全国学校図書館静岡大会についての記事を中心にお送りします。

読書週間が近づきましたが、学校内でも読書に関連した様々な行事を計画されていることでしょう。今年は国民読書年にあたります。改めて読書の大切さを考え、読書の楽しさを子どもたちに伝えていきたいものです。

(担当：杉本 操 村山 知成 佐藤 秀則)
野村 邦重 飯島 道恵

ホームページアドレス

<http://www.hokkaido-sla.jp/>